

関東学生新聞連盟 合同紙面企画

7大学 編入学特集

編入学生インタビュー＋総論、実態

理科大×青山学院×慶應×上智×筑波×一橋×法政

上智大学

留学、起業、そして編入

上智に編入するまでの経緯は？

——高校卒業後すぐに渡米。シアトル近郊のベルビュー大学で2年間コンピュータサイエンスを専攻した。卒業後、オレゴン州のポートランドで起業。そこで1年半程、現地法人で代表取締役を務めたが、卒業後に所得していた短期商用ビザの滞在期限が迫っていた。就労ビザに切り替えるにも、4年制大学卒業が取得の最低条件だった。領事館に何度か足を運び、相談をするも、ビザの問題は解決しない。大学を卒業してはいないだけで、ビザの問題だけでもこんなに大きな制約を受けるのかと面倒臭くなり、大学卒業の資格を得たいと考える。

また、スポンサー企業による制約が厳しく、当初自分が思い描いていたような会社経営ができていないという実感があつた。そのため昨年11月に起業した会社を退社。ベルビューを卒業してから2年半を経て上智に編入する。

上智大学に編入したのはなぜか？

——英語教育に強いイメージや、東京の中心部に位置するという立地条件、大学の持つ華やかなイメージが魅力的だった。単位互換に関して他校よりも柔軟に対応してくれることも決め手の一つ。

外国語学部英語学科(外英)に編入したのはなぜか？

編入学総論

法政大キャリアデザイン学科の上西充子教授に取材

編入学制度を利用し他大学や他学科に移った場合、学生はどのように成長することが見込まれるのだろうか。職業能力開発などを専門とする法政大の上西充子教授に話を聞いた。

上西教授は「学生は大学時代に本当に学びたいことを見つけて取り組むべき」と言う。一般に経済学部や法学部は就職に有利であるとされる。しかし上西教授は「就職に有利だという理由だけで、全く関心のない分野の学習をする学科に所属することには賛成できない」とする。「専門性の高い職種などの例外はあるが、多様な人材を求める先進的な企業は学部や学科で志望者の足切りを行うことはしない」と上西教授。学部や学科で志望者を差別する企業は一定数あるものの、そうした企業は旧態依然としており前時代的だという認識を示す。「特に文系の場合、どのような学部にも所属するかよりも、所属する学部でいかに主体的に学習に取り組みかが魅力的な人材になる上で重要だ」とした。

株式会社リクルートキャリアの就職みらい研究所が発表した「就職白書2015」に「採用活動・就職活動編」(就職白書)によると、企業が採用基準で重視する項目として「今後の可能性」が「人柄」や「その企業への熱意」に次いで上位3位に入っている。上西教授は「今後の可能性、すなわち潜在能力を成長させるのは主体的な学習だ」と言う。文学部などは一般に就職で不利だと言われることが多いが、「文学部の学習内容に強い興味を抱き、自ら問題意識を持って非常に熱心に研究に取り組んだ経験を持つ人材は魅力的」とした。

「転学した先で本当に頑張っている研究をする気があるなら、どのような学校にどのようにな学部学科に移っても問題ない」と上西教授は呼びかける。一方で「就

全国編入生会

「ZENPEN」に聞く

「情報格差 生じてはならない」

編入生同士のつながりを作り、高等専門学校(高専)生に編入情報の提供を行う全国編入生会(ZENPEN)。昨年3月の関東8大学合同編入説明会を皮切りに、高専生向けのイベントを全国各地で開催。また、今年8月には初めて独立行政法人国立高等専門学校機構と合同で東北合同編入説明会in全国高専フォーラム2015を開催するなど活動の幅を広げている。

発足の経緯はこうだ。自身も高専出身で、東京工業大学編入生会に所属する鈴木駿太さん(現・ZENPEN代表)、岩田真次郎さん(現・同副代表)は、同編入生会HP掲示板で「自分

職で有利だからというだけの理由で、興味はなくても経済学部などに転学することはあまりよくないのではないかと」とした。

もし強い関心を持つて学習に取り組める分野があるならば、転学科を行い、その分野の学習に専門的に取り組むことを検討してはどうだろうか。自分の学びたい分野に関するゼミが大学に無ければ、編入学で他大学に移るのも手だ。本当にやりたい分野の勉強に取り組みむことは、単に満足感が得られるだけでなく、人材としての自分の価値を上げることにつながるのだ。

(上智大・水戸義徳)

今後の目標について鈴木さんは「活発な情報提供ができるハブとしての役割を果たしていきたい」と力強く語る。編入の場合、事例が少ないこともあり、情報格差は生まれてしまふ。ただ、解消する努力はできる。ZENPENの活動はまさに情報格差の解消を模索する一例と言える。(法政大・幾野哲矢)



▲取材に応じて頂いた関本さん

ウェブ記事随時更新中！

<http://tuspress.jp/>

QRコードまたは「東京理科大学新聞会」で検索！

